

# なな山だより

なな山緑地の会会報 第6号 2007・1

## トン汁パーティー開催...アルパの演奏も

12月24日の活動日、昼の休憩時に材料は各自の持ち寄りでトン汁パーティーが開かれました。午前中に採れたばかりのシイタケ、ナメコも入れてトン汁が上手にできました。前回の活動日に作成した丸太の椅子とコンパネのテーブルを並べ、一同「美味しい！美味しい！」と熱いトン汁をいただきました。

パーティーに華を添えたのは戸谷恵麻さんのアルパ(中南米のハープ)の演奏です。アルパを伴奏に皆で合唱やハンドベルの演奏をしたあと、南米のイグアスの滝をイメージした、流麗な曲などが演奏され、皆うっとり聞きほれていました。  
(写真=左、トン汁パーティーの様子。右、アルパを演奏する戸谷恵麻さん)



あけましておめでとうございます。

早いもので、今年で本会発足から4年目を迎えることができました。過去3年間、会員のみなさまをはじめ、多くのみなさまの暖かいご支援、ご協力により種々の活動をしてまいりましたが、この間、一度の事故もなく、怪我人も出さずに来られたのが一番うれしいことです。

昨年秋には待望のトイレ、水道、電気が設備され、活動の範囲も広がりました。畑も作り、サツマイモ、サトイモの収穫ができました。残念なことにシイタケ栽培は思ったほどの収穫がありませんでした。雨が少なくホダ木を乾燥させてしまったことが原因かと反省し、再チャレンジしたいと思います。あれこれあった昨年でしたが今年はさらに充実した年にしたいと思います。

近隣の保育園、小学校の子どもたちや、近隣住民の方たちとの自然観察会などを通じて、この緑地を活用した地域社会との交流、連携を広げていきたいと考えております。

まだ、はっきりしておりませんが、今年中に今までより活動エリアが増えるかも知れません。今年も、みなさまのご支援、ご協力をお願い申し上げてご挨拶いたします。

なな山緑地の会

会長 高木 直樹



冬のなな山全景

## 冬芽のいろいろ

葉を落とした冬の木立は、既に芽生えの春を待っています。そういう樹木たちをよく見ると特徴のある、表情豊かな冬芽を見つけることができます。

まず目に付くのは**コブシ**の冬芽です。長い毛で覆われた長楕円形で10～15mmの大きさです。花芽はぐんと大きく20～25mmあります。他の樹木のどれよりも早く、春を告げる白い花を咲かせます。「なな山」には成木は1本だけですが、実生の若木が何本か確認されています。



コブシの冬芽



マルバアオダモの冬芽

もっと大きな花芽を持つのは**ハウノキ**です。30～50mmはありますが、「なな山」では大木になっていて見ることは難しいのですが、やはり実生はかなりあります。冬芽も春以降の大きな葉っぱもよく目立つ存在です。これも何本か育てていきたいと思います。

一方小さい冬芽は**クロモジ**があげられます。まだ木自体が60cm位と大変小さく花芽は見られませんが、10mmほどの細長い冬芽に寄り添うように3mmほどの球形の花芽が両側に付くとそれはかわいいものです。一年目の枝は細く滑らかで緑色を帯び黒い斑点が見られます。木の香りがよくしなやかなことから楊枝として珍重されています。

「なな山」に多く見られる**マルバアオダモ**もユニークな冬芽です。先端に付く頂芽は5mm前後、四角錐形で青灰色の細かい毛があります。すぐ脇に側芽が対生して付き、丸みを帯びてやさしさを感じさせてくれます。



クロモジの冬芽

**アオハダ**は1～3mmの小さな円錐形をしています。短枝がよく発達し、基部に古い芽鱗が残るためジャバラの上に冬芽が付いているような格好になっています。樹皮が白っぽく樹形が整っていて姿のよい山の木です。



ヤマコウバシの冬芽

**ムラサキシキブ**の仲間は冬芽にうろこ状の芽鱗のない裸芽の代表です。ほとんどの冬芽は鱗芽といって何枚かの鱗に覆われているものが多いのですが、この木は冬芽が覆われていないため、2枚の若い葉が向かい合っていて側脈さえ見ることができます。

特殊な例として、冬も枯葉を落とさずに残す**ヤマコウバシ**をあげておきましょう。「なな山」に2本ありますが、秋一番に葉を枯らし、春新しい葉が出るまで枯葉を残しています。冬芽や枯葉をつぶすとショウブのような香りがすることから「山香ばしい」が変じた名前だといわれています。

ほんの一部をご紹介しましたが、冬芽はそれだけで樹木の種類を特定でき、検索の図鑑があるほどです。詳しく見ると全て異なっていますが、これを見分けるのは至難のわざといえるでしょう。それゆえ、観察の目を養うのには格好な教材かもしれません。

ミョウガ ショウガ科 *Zingiber mioga* Rosc.



昨年の秋、なな山で自生するミョウガを発見(写真=左)。ミョウガの子も三つほど見つかった。ミョウガは6~10月に地下茎から苞に包まれた花穂(ミョウガの子)を伸ばし、苞の間に淡黄色の1日花をつける(写真=右 Photo by Shigenobu Aoki)。実はつきにくく、種ができることは稀である。その原因は複雑な雑種性によるものと見られている。日本の食卓には欠かすことができない薬味野菜であるミョウガは、数少ない日本原産野菜のひとつである。中国での栽培の歴史は古いが、日本では平安時代には食用とされ、江戸時代には栽培の原型ができあがっていたものと考えられている。現在は日本と韓国の一部と台湾で知られているだけだ。



ミョウガは古くから麻酔作用があり、邪気を祓う薬草と信じられ、また煩惱を解脱させるといふ民間信仰の「摩陀羅神」のシンボルがミョウガであったことから、神仏の加護を受けられる、縁起がよいということで、ミョウガを紋所とした「茗荷紋」が誕生したとされている(図=右上、抱き茗荷。右下、丸に違い茗荷)。

日本の家紋の起源は平安時代中頃といわれる。公家や武家のシンボルとして使われだし、牛車に描かれたり、衣服の装飾に用いられたり、戦場では旗や吹流しとして使われた。現在のような家紋として完成したのは、江戸時代に入ってから。袷の制度が整い、正式な衣装に家紋をつけることが義務づけられたことによる。大きさ、位置までが規定されていた。格式を重んじたため、図柄は象徴的となり抽象化していった。また絵柄は花鳥風月が主となるが、特に植物文様が多く見られ、なかでも花を正面から見たシンメトリーのものが圧倒的に多い。「紋帳」という家紋の作図法を示した綴じ本を見ると、図柄は自由に作られていたようだ。花柳界などでは、添い遂げられない二人が両家の家紋を合わせて、全く違う絵柄をひとつの円の中に収めたこともあったとか...



19世紀にヨーロッパでジャポニズムブームがおこった時、浮世絵ばかりでなく日本の家紋もまた大きな影響を与えた。この頃起業したルイ・ヴィトンは、日本の家紋を巧に取り入れ、急成長を遂げたといわれている。(図=左下日本の家紋と星とルイ・ヴィトンのLVをアレンジしたパターン)

広げよう会員の和



リレー随筆(6) なな山と出会ったのは27年前

吉住眞次

昭和54年12月にこの緑地の北側に隣接する現在地に入居しました。当時は木も小さくて一階の窓から見ると、木の天辺が窓の半分位のところに見えました。自宅の地盤は林床より低いのですから、樹高はかなり低かったのです。萌芽更新をしていたからでしょう。毎年冬になると、地主の住崎義秋さんが来て下草をきれいに刈っていました。木は薪に落葉は堆肥にと農家の仕事の内だったのです。雑木林はこのようにして守られているのだなと思ったものです。今は機械を使いますが、当時は鎌で刈るのですから大変な作業だったと思います。

何度か義秋さんとお話する機会がありましたが、言葉の節々にこの山を慈しんでいる感じが感じられました。その思いがこの雑木林を守る力になっていたのではないのでしょうか。また、お人柄をしのばせるようなこともありました。私の家の前の少し高くなっているところは、宅地造成で削り取って平らになっています。「この平らになっているところは、あなたたち住む人の日照のため木は植えないことにしているのだよ。」と言われ、ああ、この人は他人への配慮を大切にしている人だなと頭の下がる思いがしました。その後、下草刈に来る姿が見られなくなり、木も高く伸びてきました。何年前か、この雑木林が多摩市に寄付されたことを知りました。そしてこの山を残すことを遺言されたことを聞き、当時の義秋さんの様子から、さもありがたかったものと思います。

かけがえのない雑木林が残ることになり感謝しております。これからもご子息の岩衛さんと一緒に、可能な限り当時の姿の雑木林を維持していけるように努力したいと思います。

さて、次のランナーは誰？ そうだ！ いつも元気はつらつの須田さんにお会いしましょう。どうぞよろしく。

### 2006・9・24(日)はれ気温 23

今日は秋日和。トンボが広場をすいすいと飛んでいます。参加者 10人。

「作業」伐倒作業。枯木6本、大木のアカマツの枯木も伐倒。(全長16m、直径32cm、樹齢42年)ずいぶん手間がかかりました。側溝の整備。土手上のカヤを刈り取り土の流れるのを防ぐため側溝の底に敷き詰めました。

「観察」ミョウガ、子が三つできていました。チジミザサの花、ホウチャクソウの実、ヒヨドリジョウゴの実オオバギボウシの実、ホトトギスの花、サジガクピソウ、エビネ・ゴンズイの実、シラタマダケ(直径3~5cm、見た目はジャガイモ、匂いはキノコ、中身はゼリー状液)。後で調べたら、このキノコはオオスズメバチの餌になるそうです。

### 2006・10・8(日)晴れ気温 24

秋晴れの連休。いろいろ前からの計画があるのか、参加者やや少ない(?) 7人。

「作業」入り口の2ヶ所になな山の紹介看板の設置。下草刈、落枝片付け。林内のヒノキの枝打ち。道整備、西奥。山の中に捨ててあった粗大ゴミの片付け。

「観察」真っ白なキノコの親子(写真=右)蜂の巣発見(オオスズメバチではなさそう)。



### 2006・10・22(日)くもり気温 20



涼しくて作業には快適。参加者 11人。前に遊びに来た保育園児が両親を連れてまた来てくれました。こんな出来事は、うれしい(^.^)。

「作業」下草刈、枝片付け、枯木の伐採、排水溝整備、植生調査。

「観察」切り倒して2年ほど置いてあったスギの丸太の上に2~3cmのスギの芽生え約10本を発見(写真=左)。東の谷の中程に珍しい花発見。キチジョウソウ(吉祥草)咲くと吉事があるといわれている。きっと良い事がある予感(^.^)。今日の花=ア

キノキリンソウ、アキノタムラソウ、オケラ、コウヤボウキ、ヤマハッカ、ツワブキ、リンドウの蕾。鳥=コゲラ、シジュウカラの声。西斜面の藪の中でコジユケイを4羽発見。



### 2006・11・12(日)晴れ気温 18

昨日の雨が上がり爽やかな日となりました。ただ風が強い。参加者 7人。

「作業」腐葉土運び、サツマイモ掘り、下草刈、伐採ヒノキ3本。サツマイモは2畝試し掘り、量も大きさも見事(写真=右)。サトイモは2株試し掘り、小芋のつき方イマイチ。シイタケ・ナメコが出ない(コマ打ちが少なかった?)。細いホダ木1本だけに沢山生えていた。

「観察」今日の花=キチジョウソウの赤い実ができていました。黄色いヤクシソウの花、盛りです。リンドウは蕾のまま。今日の鳥=昼食時、可愛いエナガが数羽、近くの枝で遊んでいました。

### 2006・11・26(日)くもり気温 13

くもりだが雨は作業の終わる頃、少しぱらついた程度で、まずまずの活動日和。参加者 11人。

「作業」サツマイモ・サトイモの収穫、畑の耕しと腐葉土入れ、下草刈、電動鋤で板削り。相田さんが入手した耕耘機で畑の拡張。さすが人力とは違い効率良く耕せました。そこに東の腐葉土を運び敷込みました。

### 2006・12・10(日)晴れ気温 14



晴れて暖かく活動日和。参加者 11人。今日は賑やか。

「作業」腐葉土出しと畑への敷き込み、ウメの剪定(写真=左)、椅子・テーブル作り、下草刈。腐葉土を出したら、カブトムシの幼虫が沢山出た(写真=右)。あまり多いので、囲いを1個寝床にして保存、近所の小学生にプレゼントすることにする。

12月24日にトン汁パーティーと戸谷さんのアルバの演奏のため、丸太の椅子とコンパネのテーブルを作りました。

(後半、戸谷さんが作業療法の実習で参加できず、鎌田が一部代筆しました。)



なな山だより 第6号  
発行  
発行責任者  
住所  
編集委員

平成 19年 1月 14日発行  
なな山緑地の会  
高木直樹  
多摩市和田 1394 13  
鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

#### 編集後記

あけましておめでとうございます。  
CO2を減らすには排出を減らすと同時に緑を増やすことが大切...と環境講座で習いました。今年もなな山の緑を皆で力を合わせて守っていきましょう。 K